

# 令和7年度 若狭東高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 学習支援	a 「まなびの心得」をもとに生徒の学習に向かう態度を向上させ、教員は授業研究会を複数回開催して、生徒を見取る力を高める  目標：公開授業参観2回以上	「まなびの心得」強化週間でチャ임着席についてチェックし、生徒の意識を向上させることができた。ほぼすべての教員が公開授業を2回以上参観することができた。	「まなびの心得」については強化週間を2回行うことでより生徒の意識を高めていく。公開授業後の研究会を充実させ、教員の指導力向上につなげる。
	b DX推進のためのサポートを実施	図書館オリエンテーションでは、十分な時間がとれずに、タブレット端末の設定をするにとどまってしまった。生徒がタブレットを使う際の、情報リテラシーの育成にはまだまだ時間を割いていく必要がある。	生徒への働きかけは、年度初めの図書館オリエンテーションだけではなく、普段の授業や行事の中で継続して行っていくことが必要である。そのような働きかけを行っていく。
	c ビブリオバトルを通して、読書習慣の啓発に努める  目標：年間図書貸出冊数増加	昨年度の貸出数が1,150冊。今年度は12月現在で昨年度を少し下回る見込みである。ミニビブリオバトルは3年目を迎え、生徒の中に一定の意識が芽生えてきた。	図書館を模様替えしたり、ハロウィンやクリスマスなど各種イベントを行うことで生徒が来やすい場所作りは行っているため、今後は少しでも生徒の目が読書に向くように働きかけをしていく。
2 生徒支援	a 年間を通した挨拶運動の実施と、清掃活動に対する生徒自己評価の実施  目標：不注意遅刻者数3.0人/日 清掃自己評価年5回実施	校門での朝の挨拶運動を通して、生徒の変化に早い段階で気づくことができ、教育的効果を感じている。また、髪型や服装に関しても一定の効果が伺える。不注意による遅刻者数は、1学期1.35人/日、2学期1.68人/日(11月27日現在)で目標を上回ることができた。継続して行っている遅刻3回で指導(朝の挨拶運動)をすることにより、早い段階で指導が入り遅刻の常習化に歯止めがかかったものと思われる。1学期に2回、2学期に2回、3学期に1回の清掃自己評価アンケートを実施した。学年によって多少の違いはあるが、定期的に振り返ることで、全体として校内美化への意識付けは向上してきていると感じる。	今後も引き続き「生徒の変化の気づき」という観点で挨拶運動に取り組んでいくとともに、「元気よく挨拶できる生徒」の育成にも取り組んでいきたい。不注意による遅刻生徒は減少傾向にあるものの、「慢性的な体調不良」による遅刻や「不登校傾向」による遅刻生徒は増加傾向にある。保健・教育教育相談部とも連携を取りながら、規則正しい生活リズムの確立を促していく。  美化委員会の活動を活性化し、美化意識向上の取り組みを工夫する。また、生徒が自身の清掃活動やゴミ分別等の行動を振り返る機会を定期的に設けることで、意識のさらなる高揚につなげる。
	b 生徒会行事(スポレク大会、学校祭)を主体的に実施できる体制の構築  目標：行事実施後の生徒満足度98%以上	学校祭の満足度は97.7%であった。生徒会執行部を中心に、前例踏襲にとらわれない挑戦があり、新たな自信やスキルを獲得した生徒やクラスも多いと感じた。彦姫祭では来場者数を更新した。本校のファンやサポーターを増やす努力を通して、生徒の成長を促せた。学校祭では髪型など生徒の判断に任せてみたが、ルールの拡大解釈もあったことから、対応や支援方法が課題となった。	「やって終わり」ではなく、全校体制のふりかえりを実施することで、学びや課題を洗い出す。教員間で共有し、気がかりな生徒については、関わりのある教員による継続的な見取りをお願いする。「やりたい」「頑張りたい」という生徒の気持ちを大切にできる支援を心がけ、困り感の共有など教員間の連携を高めた。
	c 各部署や学年会との情報共有を密にし、必要に応じて有機的に各種サポートを実施  目標：不登校等による進路変更者を減らす	1年生の教職員全局面談を2回実施し、生徒と教員との結びつきを向上させることができた。SCやSSWとの連携を昨年度以上に進めることができた。特にSCの利用者のべ数は激増し、面談は常にほぼ満杯状態であった。さらに学年会や各部署との連絡を密にして情報の共有を意識し、生徒の困り感や学校生活への不応の早期発見につなげることができた。結果として学校不応による進路変更者数は昨年度より減少した。一方、休養したい生徒の受け入れを保健室-相談室-図書室で連携を図って対応しているが、教員不在のために生徒に移動してもらわざるを得ないケースもあった。限界はあるが、時間割編成時に留意する必要がある。	生徒がより多くの教職員と結びつきを持てるように、年2回の1年生教職員全局面談を継続するとともに、その内容を工夫する。  SC、SSWとの連携をさらに強化して、必要な生徒が専門家からの支援をしっかりと受けられるようにコーディネートする。  また、保健室-相談室-図書室の担当教職員間の連絡を密にして、一層の連携を図り、生徒が安心できる場所を確保するとともに、生徒の変化や困り感をいち早くキャッチできるようにする。

3 進路支援	a 進路ガイダンス、オリエンテーション、LT等を通して生徒の進路意識を高める  目標：進路ガイダンス、オリエンテーション等後の振り返り時間設定3回以上	1年生は12月、2年生は7月に進路ガイダンスを開催した。各種学校や企業の方から直接お話をうかがうことで、進路意識の向上を図ることができた。また1年生は11月に実施した進路適性検査を活用して、自身を見つめ直す機会とした。3年生は個々の進希望の実現に向けて、全体及び個人に適切な指導、助言を行うことができた。	進学に関しては、指定校推薦や総合型選抜で入試に臨む傾向が強いが、学力で勝負できるような実力を養成して選択の幅を広げることが課題である。就職については、社会人となる覚悟が不十分な生徒が少なからずおり、早期離職の懸念を拭い切れない。就職後の展望を可能な限り明確化させていく指導が求められる。
	b クラス・生徒の実態に即した進路情報提供体制を構築する  目標：若狭東ポータル情報更新月3回以上	教室掲示とともに学校ポータルサイトでの連絡を随時行い、必要に応じて情報更新することができた。3年生については、クラスルームの活用により、進学・就職それぞれの希望者に適宜情報提供をすることができた。保護者や外部への発信が不十分であったことは今後の課題である。	情報過多となっているのが現状であり、掲示物等の精選が必要となっている。個々の生徒の進路希望の把握を進め、担任との連携を密にしながら効果的な情報提供を図りたい。
4 地域連携	a ホームページ更新やPTAだよりを発行し、学校の情報を保護者に提供する  目標：HP更新90回以上、PTAだより発刊2回以上	学校ホームページの更新は通算51回(11/19現在)で例年に比べ少なくなっている。今年度から学校の公式インスタグラムを開設し、学校の身近な情報発信を行っている。こちらの更新は同じく60回であり、フォローも日に日に増えている。	インスタグラムによる情報発信は効果的であり継続して取り組む。PTAだよりの内容について、保護者から知りたい内容についてご意見を伺い、より充実した紙面にしていく。
	b 同窓会及び学校活動を会員へ広く広報し、同窓会活動への参加を活発にする  目標：総会出席者数前年度比10%増	同窓会総会の出席者は前年度より4割増となった。昨年度(小浜開催)の参加者が非常に少なかったこともあるが、同窓会役員や各地域の支部長各位のご尽力の賜物である。役員・支部長の高齢化にともない、若手への引継ぎが課題として出てきている。	令和8年度は上中地区が担当地区となるが、より多くの参加者が見込まれる小浜市内での開催を予定している。効果的な広報活動について検討する。創立110周年の事業内容について、検討を始める必要がある。
5 専門 農業系 指導	a 地域社会や産業界との連携を深め、生産、調理・加工、販売に総合的に取り組むとともに、専門科目に関する資格・検定の合格を支援する  目標：アグリマイスター認定者を2桁にする	アグリマイスターの認定者数は、認定手続きがこれから始まるため未定である。情報分野をはじめ、教科担任の配置を見直し、より専門性の高い教員が指導できる体制を整えた。一方で、他教科の授業時間が増加するため、引き続き調整が必要である。	アグリマイスターの認定に関わる資格・検定を中心に、指導体制や教材の充実を図る。指導を担当する教員の資質向上や生徒が計画的に学習できる教材や環境を整える。
	b 校外で実施される各種発表会(学校農業クラブを含む)に参加し、入賞や上位大会に出場する  目標：各種発表会での入賞	農業クラブでは、意見発表会Ⅲ類とプロジェクト発表Ⅲ類で年次大会(県大会)最優秀賞を受賞し、北信越大会で優秀賞を獲得した。意見発表会Ⅰ類・Ⅱ類では年次大会で優秀賞であった。一方、農業クラブ以外の各種発表会への参加は少ない状況であった。課題研究の充実のため、令和8年度に学校設定科目「課題研究基礎」を開講する準備を進めた。	「課題研究基礎」と「課題研究」、「各専門科目」をつなぐ体系的なカリキュラムの整備と外部発表機会の拡充により、生徒のプロジェクト活動等を強化する。
6 専門 工業系 指導	a 実習を中心とした学習指導を充実させ、技術・技能・社会規範を習得させる  目標：生徒用タブレットPによる共同編集機能を活用した授業回数前年比10%増	課題研究においてタブレットPCを積極的に取り入れ、学習支援を充実させたことで、工業技術の習得につながった。また、タブレット型PCの共同編集機能を活用した授業回数前年比10%増を達成し、探究的な学びを支援することで、知識や情報を整理・分析し、まとめて表現する力が身についた。一方で基礎知識、技能の定着が課題である。	工業の各科目において、探究的な学び(問い、情報収集、整理・分析、まとめ、表現)を取り入れる。対話を充実させタブレットPCの共同編集作業も活用する。また、学んだ内容を教える、反復する、議論する、文書にまとめるといったアウトプットの習慣化をタブレットPCを活用しながら行い工業知識、技能の定着を図る。
	b 資格や検定試験の受験を働きかけ、取得できるように支援する  目標：ジュニアマイスター認定者3名以上	資格取得の意義を明確に伝え、挑戦することの価値を説くことで、資格取得意欲の向上を図り、ジュニアマイスター顕彰においてゴールド1名、シルバー2名を含む認定者を多数出すことができた。目標数は達成したものの、資格取得に積極的に挑戦する生徒は微増の状態であり、どのように増やすが課題である。	資格取得に挑戦するためのきっかけづくりとして、難易度が低い資格検定を全員受験させ、実習テーマに技能検定など資格に関わる内容を組み込む。また、課題研究においても資格探究の時間を入れるなどして、資格試験挑戦への意識を醸成し受験者数を増やす。
7 専門 商業系 指導	a 将来を見据え、意欲的に資格取得にチャレンジさせる  目標：全商1級3種目以上表彰者3名以上	将来を見据え、意欲的に資格取得にチャレンジさせたが、全商1級3種目以上表彰者は1名であった。しかし、主体的に上位級に挑戦する生徒も現れた。最後まであきらめてしまう生徒が若干名見受けられたことが課題である。	将来を見据え、直接的に進路につながらなくても、必ずその知識技能が生きる力になることを理解させ、意欲的に資格取得にチャレンジさせる。また、モチベーションを保てるよう指導する。さらに、下級生のうちから合格しやすい検定を受検させることで、自信をつけさせていく。
	b 地域社会との連携による探究活動(課題研究)を組織的に運営し推進する  目標：課題研究等実践4本以上	地域社会(商店街、事業主)と連携し各分野で役割分担をして組織的に探究活動を行うことができ、課題研究実践を4本することができた。一方で、学んだ商業の知識を生かすことができなかったことが課題である。	地域社会等との関わり方は現状に満足せず深く、あるいは別の団体等とも関わりを深めていく。さらに、常に広い視野を持ち、新しい技術(VR等)に目を向けさせる。